

平成 28 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：森林の分断化が地下微生物群集に与える影響の解明 英文: Effects of forest fragmentation on the belowground microorganisms
研究代表者	奈良 一秀
参加研究者	小泉 敬彦
研究成果概要	<p>【新種記載】</p> <p>乗鞍岳において子実体が採取された 2 菌種を新種として記載した。記載文を学術誌に投稿し、<i>Rhizopogon alpinus</i> および <i>Rhizopogon nitidus</i> と命名した (1)。和文の一般書でも紹介され、ハイマツショウロ、クロツヤショウロと和名をそれぞれ掲載した (2)。</p> <p>【集団遺伝解析】</p> <p>上記の <i>R. alpinus</i> は、他調査地 (国内 6 カ所) においても菌根として確認されたことから、本菌種を集団遺伝解析の対象種とした。解析に用いる SSR マーカーを新規に 12 セット開発し、現在解析を進めている。</p> <p>これらの研究成果は、学術誌および学会において発表している。また、乗鞍岳での研究・アウトリーチ活動の様子は新聞でも取り上げられた (3)。</p> <p>(1) Koizumi T, Nara K. 2016. Two new species of <i>Rhizopogon</i> associated with <i>Pinus pumila</i> from Japan. <i>Mycoscience</i> 57: 287-294.</p> <p>(2) 小泉敬彦、「コラム：日本産ショウロ属種の見分け方とその特徴」、『おいしいきのこ毒きのこハンディ図鑑 (大作晃一、吹春俊光、吹春公子 編)』、主婦の友社、pp237、2016</p> <p>(3) 小泉敬彦、「標高3千メートルで生き物教室 乗鞍岳の山小屋」、朝日新聞 (岐阜)、2016年8月12日付</p>
整理番号	D10